

大学生の健康づくりネットワークを活用した 学生寮における新型コロナウイルス感染症対策の推進

東京都南多摩保健所 三浦千裕、村井敦、坂本珠江、春日里江
対馬かな子、倉持大輔、荒川泰雄、舟木素子

1 はじめに

南多摩保健所管内3市(日野市、多摩市、稲城市)には、10校の大学・短期大学がある。当保健所では、感染症の発生があった際、初動対応に遅れを生じる事案があったことを受け、平成22年度に大学の保健管理部門担当者(以下「保健担当者」という。)と保健所職員による「感染症連絡会」を設置した。平成24年度には「大学保健管理部門ネットワーク支援事業」を立上げ、若い世代からの健康づくり対策を考える機会として、定期的にネットワーク会議やメーリングリストによる情報交換・発信等を実施している。

令和2年度、当保健所管内の大学学生寮において、新型コロナウイルス感染症のクラスターが続発したことから、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を推進するため、管内大学学生寮に対する訪問調査を実施し、一定の成果が得られたので報告する。

2 調査内容

1) 学生寮に対する訪問調査の意向調査(令和3年5月)

管内全大学に対し、訪問調査希望の有無および感染対策に関する悩みについてアンケートを実施した。

2) 学生寮に対する訪問調査(令和3年6月)

訪問調査の希望があった学生寮に対し、保健師、医師、環境衛生監視員、事務職等のチームで訪問し、感染予防対策、発生時対応の確認と助言を行った。

3) 訪問調査の事後アンケート調査(令和3年11月)

訪問調査の効果を検証するため、訪問調査を受けた大学に実施した。

3 結果

1) 学生寮に対する訪問調査の意向調査

3大学4学生寮からの訪問希望があった。全ての寮が、食堂や浴室等の共用エリアの管理方法、患者発生時の対応、保健所との連携方法について悩んでいた。

2) 学生寮に対する訪問調査

(1) 寮の特徴

寮内は、全ての寮において、トイレや浴室、食事スペースが共用となっていた。寮の管理は建物管理を外部委託し、住込みの管理人を雇用する等、複数の機関が関与していた。また、寮によって日本人学生が外国人留学生のサポートをしながら共同

生活を送る寮や、運動部寮等の特徴があった（表1）。

（2）学生の健康管理体制

学生が健康状態を報告する体制のある寮がある一方、有症状時の報告が学生の判断に委ねられている寮もあった。また、有症状時の対応については検討中の寮もあった（表2）。

表1 学生寮の概要

	寮内環境			管理人の有無	建物管理	特徴
	トイレ	浴室・シャワー	食事スペース			
A寮	共用	共用	共用	無	大学	ユニット毎の共同生活 (日本人学生が留学生をサポート)
B寮	共用	共用	共用	有	外部委託	
C寮	共用	共用	共用	有	外部委託	外国人留学生が多い。 団地型シェアハウス。
D寮	共用	共用	共用	有	大学	運動部寮。コーチや上級生 中心に感染対策を実施。

表2 学生の健康管理体制

	寮内環境	建物管理
A寮	体調不良時は各自大学へ報告	速やかに受診、居室隔離
B寮	各自検温し、管理人へ報告	速やかに受診、居室隔離
C寮	体調不良時は各自リーダー役の学生へ報告	速やかに受診、居室隔離
D寮	各自検温し、アプリへ入力。コーチおよび代表学生がとりまとめ	速やかに受診、居室隔離 有症状者の受診方法について検討中

（3）寮内の環境

寮内に設置されていた消毒薬の中には、アルコール濃度が低く、新型コロナウイルス感染症に対する効果が期待できないものもあった。共用エリアの中でも、洗面所や食堂は密になりやすく、マスクを着用せず利用するため感染拡大のリスクが高かった。換気については、換気扇や給排気口の整備不良や、ほぼ全ての給気口が閉まっている等、空気の流れを理解していないことにより、換気能力が低下している施設が散見された。

訪問調査の様子



(4) 学生による取組

学生が食堂やトイレ等の共用エリアを掃除していた際には、エリア毎に清掃手順が決められ、当番制で清掃や消毒が適切に実施されていた。訪問調査時には代表の学生が同席し、保健所の説明や助言を一緒に聞いていた。

3) 訪問調査の事後アンケート調査

訪問調査を実施した3大学4学生寮へアンケートを送付し、全寮から回答を得た(回収率100%)。

(1) 学生寮の特徴や課題

各大学が学生寮の特徴や課題として回答したのは「患者発生時の対応」「清掃・消毒方法」が3か所(75%)、「換気」「学生の健康管理」「学生への普及啓発」「関係各所との連携」が2か所(50%)、「その他」が1か所(25%)であった(図1)。「その他」の内容は「古い建物のため、換気状況を管理会社がどこまで対応できるか分からない」であった。

(2) 訪問調査後の取組

訪問調査後の学内での取組について、「対策を講じた、見直した」が2か所(50%)、「現在対策を講じている、見直している」が2か所(50%)であった(図2)。

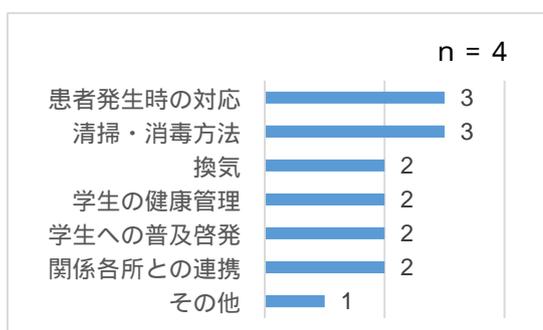


図1 学生寮の特徴や課題



図2 訪問調査後の学生寮の取組

(3) 訪問調査の効果

訪問調査の効果について、「自施設の特徴や課題が分かった」「保健所への相談がし

やすくなった」が4か所(100%)、「保健所の役割や対応が分かった」が3か所(75%)、「患者発生時の対応が分かった」が2か所(50%)、「具体的な対応策が分かった」が1か所(25%)、「その他」は2か所(50%)であった(図3)。「その他」の内容は、「換気設備の重要性を理解することができ、厨房、脱衣所および浴室の清掃を行うことができた」「疑問に対する回答やアドバイスがもらえた」であった。

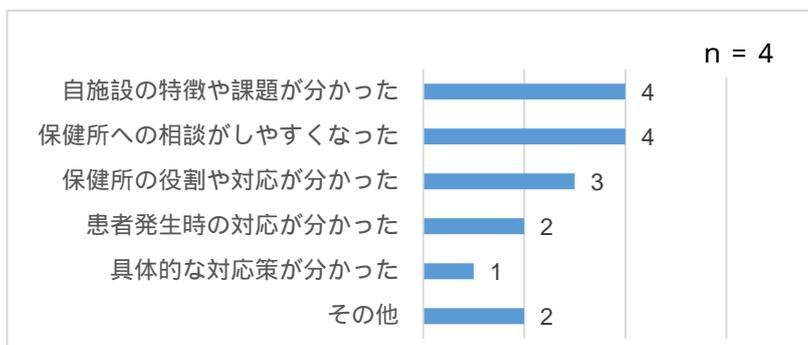


図3 訪問調査の効果

4 考察

1) 学生寮の特徴と課題

学生寮は食事スペースや浴室等、マスクを外して使用する共用部が多く、感染拡大のリスクが高い。寮内での感染拡大を防ぐためには、有症状者を早期探知できる体制整備が重要であるが、学生の健康管理体制や患者の対応方法が確立していない寮もあり、各大学においては、学生寮関係機関相互の連絡体制の整備や対応フローの整備等、平時から役割分担や連携方法について検討する必要がある。

また、学生が感染症について正しく理解し、主体的に感染対策に取り組める体制を整備することにより、学生の健康意識が高められ、適切かつ効果的な感染拡大防止対策が実施できる。

2) 訪問調査の成果

(1) 大学側

訪問調査を受けて、各大学が寮の特徴や課題を理解し、換気扇の清掃や共用エリア使用時のルールを設定する等、新たな対策を講じていた。

また、学生寮担当者から感染対策について直接保健所に相談が入るようになり、各大学の学生寮関係者と顔の見える関係が構築されたことで、事前対策の推進、患者発生時の速やかな対応が可能になった。

なお、今回訪問した寮からの患者発生はない(令和3年11月末時点)。

(2) 保健所側

訪問調査により、寮内の感染対策の取組状況や寮の特徴、課題等が把握できたため、患者発生時には効率的、効果的な対応が可能となった。

5 今後の計画

今回、調査を受けていない大学を含む全ての大学に調査結果をフィードバックし、大学における感染拡大防止対策の推進を図る。当保健所管内には、管外大学の学生寮も多くあるため、今後は管外大学への普及を目指した取組を行っていく。また、自殺対策等、感染症以外の多様な健康課題や健康危機発生時にも、大学が適切に対応できるよう情報提供や情報共有を行い、ネットワークの活用を図っていく。

【謝辞】

本稿をまとめるにあたり、ご協力いただきました、大学生の健康づくりネットワークメンバーの皆様に厚く御礼申し上げます。